

3 調査会審議経過

【国際問題に関する調査会】

(1) 活動概観

〔調査の経過〕

本調査会は、第152回国会の平成13年8月7日に設置され、今期3年間にわたる調査テーマを「新しい共存の時代における日本の役割」と決定した。その具体的な調査項目としては、①「イスラム世界と日本の対応」、②「国際経済」では「グローバリゼーションと国際経済」「東アジア経済の現状と展望」「貧困の削減と世界経済の持続的発展」、③「地球環境問題の現状と日本の取組」及び④「アジア太平洋の安全保障」について調査を行うこととした。なお、第1年目は、まず初めに「第IV期調査会のODAに関する提言と政府施策の現状」について調査することとし、その後、「イスラム世界と日本の対応」及び「国際経済」の中の「東アジア経済の現状と展望」について調査を行うこととした。

第153回国会においては、2回の調査を行った。

11月7日に、「第IV期調査会のODAに関する提言と政府施策の現状」について、政府からの報告を西田外務省経済協力局長から聴いた後、各政府参考人（高橋外務省総合外交政策局国際社会協力部長、西田外務省経済協力局長、溝口財務省国際局長、白川文部科学省国際統括官及び林経済産業省貿易経済協力局長）に対し質疑を行った。

次に、11月28日に、「イスラム世界と日本の対応」のうち「イスラム世界の歴史と現在」について、後藤明参考人（東京大学東洋文化研究所教授）及び小杉泰参考人（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科教授）から意見を聴取し、質疑を行った。

〔調査の概要〕

(1) 「第IV期調査会のODAに関する提言と政府施策の現状」

「第IV期調査会のODAに関する提言と政府施策の現状」について政府からの報告を聴取した後、委員から、政府のODA施策に対する調査会提言の効果、援助実施におけるNGOとの連携、「人間の安全保障」のためのODA支援の現状、ODA基本法制定の可能性、ODAによるIT支援の現状、我が国ODAと資源開発の関係、ODA大綱の基準に該当しない国に対する援助の扱い、ODAのアンタイド化の意味等について質疑を行った。

(2) 「イスラム世界の歴史と現在」

後藤参考人から主としてイスラム世界の歴史について、小杉参考人から主としてイスラム世界の現在について意見を聴取した後、委員から、我が国とイスラム世界との関係、イスラム社会における宗派の違い、タリバンによるアフガニスタン支配の歴史上の位置付け、米国同時多発テロを受けてイスラムが採るべき対応、イスラム原理主義、グローバリゼーションとイスラム、イスラムにおける民主主義、個人主義のとらえ方、米国がイスラムから敵意を持たれる理由、国家と宗教との関係等について質疑を行った。

(2) 調査会経過

○平成13年10月2日（火）（第1回）

- 理事を選任した。
- 理事の辞任を許可し、補欠選任を行った。

○平成13年11月7日（水）（第2回）

- 調査項目の選定について会長から報告があった。
- 政府参考人の出席を求めることを決定した。
- 第4期調査会のODAに関する提言と政府施策の現状について政府参考人から報告を聴いた後、政府参考人に対し質疑を行った。

○平成13年11月28日（水）（第3回）

- 参考人の出席を求めることを決定した。
- 「新しい共存の時代における日本の役割」のうち、イスラム世界と日本の対応（イスラム世界の歴史と現在）について参考人東京大学東洋文化研究所教授後藤明君及び京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科教授小杉泰君から意見を聴いた後、両参考人に対し質疑を行った。

○平成13年12月5日（水）（第4回）

- 国際問題に関する調査の継続調査要求書を提出することを決定した。